

秋田県立大学 システム科学技術学部 経営システム工学科

助教 川島洋人 研究室 (<http://www.akita-pu.ac.jp/system/mse/ie/khiroto/>)



1976年 神奈川県藤沢市生まれ
2000年 横浜国立大学物質工学科卒
2003年 横浜国立大学大学院
環境マネジメント専攻中退
2003年 秋田県立大学
システム科学技術学部
経営システム工学科 助手
2005年 同大学 助教 (現在に至る)

●研究のスタートと厳しさ 横浜国立大学にて研究をスタートさせました。その時出会った恩師達(中西準子先生, 益永茂樹先生, 中井里史先生)や先輩, 後輩達に, 社会への研究の貢献, 研究の面白さ, 生き方からすべてを教えて頂きました。私は出身は藤沢市で神奈川県から出たことがなかったのですが, 親戚も知り合いも誰もいない秋田県に10年ほど前にやってきました。秋田県立大学は開学してすぐで, すべての実験棚はガラんとした状態で, 大学院設置の費用で買った安定同位体比質量分析計が1台, GC/MSが1台あるのみでした。安定同位体比を使った研究を立ち上げてほしいということで声をかけて頂いたものの(といっても安定同位体の研究はやったことがありませんでした), 当初は心細く, 色々大丈夫かいな?と思うこともありましたが, すぐに慣れて, 学生達と楽しく研究させてもらっています。

●最近の研究と心意気 本研究室では, 有害化学物質の起源推定や効率的な社会というものをキーワードにして, 大気中の有害化学物質(粒子状物質, 揮発性有機化合物)の環境動態の研究を中心として, 農薬類(冷凍餃子のメタミドホスや農薬疑義資材の問題などにも)も手を広げており, さらに最近では環境分野にもこだわらずに, 出来ることをしよう, 面白いことをしよう, 社会にとって役に立つことをしようという意識を強くしており, 鑑識分野や医療分野にも果敢に挑戦しています。そのため, 学生には, 比較的, 大きなテーマに取り組んでもらっています。こういったやり方は, もちろん欠点もありますが(個々の負担は大きくなりますし, 研究の業績が出難くなるでしょうし, 一つの専門に特化する方が研究者として生き易いというのがあるかもしれませんが), 各自が自分のやっていることの意味をよく考えるようになり, 目的意識をしっかり持つ上では重要ではないかなと思っています。新しい事に挑戦してみたい, 意味をしっかり理解して進めていきたい, 素人集団がどこまで出来るのか挑戦してみたい, そういう心意気で今は踏ん張ってやっています。

●色々感謝 今年度は科研費では若手研究Aや挑戦的萌芽研究, 厚労省科研費も頂いて研究をさせて頂いています。当初は研究費も全くない状態だったので, 本当にありがたく感じています。現在では装置も充実してきました(同位体MSが3台体制になりました)。また, 大気環境学会では2010年度(菊池奈美), 2012年度(須藤菜那)にベストポスター賞を受賞させて頂きました。陰ながら応援してくれている人がいるんだと皆で勇気づけられました。また2011年には北海道・東北支部会を大学で開催させて頂きました。大気環境学会には本当にいつも感謝しています。

●須藤菜那 私たちが所属する経営システム工学科はほとんどが文系の研究室なので, 川島研究室(我々は「川島チーム」と言っています)はアウェーな状況です。学部生でも分析装置を独り占めで実験したり, 学会に報告したり, 国際誌に論文を出すとか, 積極的に研究に取り組んでいます。学会に行くと, 先生の友人や先輩達とその土地の美味しいものを食べ歩きます。研究室でいつも皆で確認することは, 研究をすることや論文を書くことも大事なことです, 人としてきちんと行動出来たり, きちんと自分の頭で判断が出来ているのかということが一番大事にしています。

●大山涼人 明日は会社がなくなるかもしれない, クビになるかもしれない, そういう中でも生き延びたり, 楽しさを見つけようというのが川島チームです。研究室では, ざくばらんに議論できる雰囲気です。しかし, ある意味では人としての真価が問われる厳しい研究室ともいえると思います。

